高齢弱者を火災から守れ

島田榮一

町長

関係機関と連携し、対応していく

質問 最近、高齢者家庭からの出火による火災が多く、多数の死傷者が出ている。特に認知症や要介護者等のひとり暮らし家庭からの出火が多い。糸魚川市の大火が記憶に新しい現在、赤城おろしが吹きつける当町も大きな危険性をはらんでいる。

自主防災組織、女性防火クラブ、民生委員等が連携して、まずは高齢者から火災を出させない方策を考えるべきではないか。

答弁 **町長** 火災がもたらす被害の大きさに、改めて防火対策の重要性を認識している。

高齢弱者から火災を出させない方策では、まずは家族が対象者の日頃の行動を注意深く観察し、火災を発生させる原因を取り除くことが重要である。

また、当町では、75歳以上のひとり暮らし高齢者宅に住宅用火災警報器を設置する事業を行っており、既に358戸に設置している。

今後、家族だけでは対応しきれない場合は、近隣住民・民生委員・区長・女性防火クラブ・消防署と連携し、対応していきたい。

火災被害を減らすために

生涯活躍のまち推進事業（※1）の具体的内容は

質問 今後の人口減対策として、「玉村町版生涯活躍のまち推進事業」とは、具体的にどのようなものなのか。

答弁 **町長** 東京圏への一極集中が進む中で、地方創生の観点から地方への新しい人の流れをつくる構想であり、増加傾向にある空き家や公共施設等の地域資源の活用にもつながると考えている。

平成29年度は、東京圏からの移住にとどまらず、町内・周辺地域企業の求人ニーズ、若者層・シニア層の転職や移住に関する調査を行い、町独自の生涯活躍のまち実現に向け、構想及び実施計画を策定していく。

※1【玉村町版生涯活躍のまちとは】13ページを参照

玉村内科クリニックの存続を求む

柳沢浩一

町長

地域の重要な医療機関と考える

質問 上陽地区にある玉村内科クリニックは、建物や医療機器の老朽化が著しく、医師も高齢の域にあるため、存続を危ぶむ声が寄せられている。

このクリニックの原点は、合併前の上陽村が恐らく無医村だったことから、乏しい村財政をやり繰りしてやっとの思いで開設した上陽村国保診療所である。こうした経緯からも当院の存続を望むが、現在の契約はどうなっているのか。

答弁 **町長** 玉村内科クリニックの現在の土地・建物の賃貸借契約は、平成24年4月から平成29年3月までの5年間で締結している。土地の面積が3400平方メートル、建物面積は538平方メートルで、契約金額は年間133万2500円である。

質問 今後の契約については、どう考えているのか。

答弁 **町長** この契約は今年度末で満了となるため、現在と同じ内容で契約更新を行う予定である。

存続を求めることについては、玉村内科クリニックはこれまでも住民の健診や予防接種など当町の保健事業に多大な協力をいただいている。また住民の身近な「かかりつけ医」として地域医療を支える重要な医療機関と考えている。

老朽化が進む玉村内科クリニック

質問 町長は玉村町の医療、町民にとっての受診環境についてはどう考えるか。

答弁 **町長** 団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据えた地域で見守る包括的な支援体制の構築が求められており、今後は医療や介護などのネットワークの連携により、いつでも安心して受診できるシステムづくりに努めていきたい。

こんな質問もしています

- 買い物難民の支援を考えているか
- 学期制をどう考えているか
- 人口減少、財源難時代のインフラ整備はどうあるべきと考えるか